

ありがとう

森田邦夫

秋田県・七八・無職

母さん今どこを歩いていますか。まだ安住の地が見当たりませんか、三途の川を渡りましたか。濡れた衣服は取り替えましたか。

母さんが逝つてから一年が過ぎたばかりです。父さんの手術後の身体を心配して負担をなくさなければと、植木鉢などの冬の準備そして雪かきと雪捨。除雪車の音を聞いて起きていたでしょう、寝床にはいません。少しでも手伝いしようと思いきいますが、寒いので父さんはストーブの番をしてと言う。三年目の冬から穏やかな朝は少しは手伝いするが、雪捨は母さんも近所の人達に手助けしてもらいながら過ごして来ましたが、ありがとうと言わないままでした。今改めてこの便りにありがとうと書いてお送りします。

佳作

療養中は手を掛けてもらいましたが、母さんは煩わす事もなく、何も言わず逝った事が心に残ります。父さんも近所の人達に手助けしてもらいながら一年を過ごしました。母さんにはありがとうと言えなかつた事が残念です。

「凍つく朝

軋む雪 振り向けば粉雪が

亡妻に見守られ 雪かきを終え」

亡妻の六字の名号に父さんの名前の一文字があります。しっかりと胸に抱いていきます。方丈様もお母さんの魂はお父さんの胸の中に居ますからと言っていました。安心して居て下さい。

約束した所へは必ず連れて行きますから待つて下さい。父さんより先には逝かないとの約束でしたが、それも叶えられず残念ですが、その分しっかりと生きて行きますから守って下さい。

もう少しすれば、「おばあちゃん」と呼べる新しい家族が一人増えました。大切に守って下さい。

また会える時がありますその時は改めてありがとうと言います。

おかあさん……ありがとう。

\*手術後五年はあまり動かない様とのごとで妻は自分で動いていました。そのことであらうと言えないまま、妻が逝った事が心残りです。